

2019年度文系チャレンジ講座（第3回）を実施しました

7月3日（水）に経済学部の渡邊博子先生を講師に迎え、「中小・ベンチャー企業のイノベーションと発展戦略」というテーマで、文系チャレンジ講座の第3回を実施しました。遠隔配信した安心院、中津南、国東に来学受講した佐伯豊南を加え4校38名が受講しました。当日は県内に大雨警報が出されており、一部の学校では下校時刻を早めるといった状況であったため通常より少ない受講者でした。



先生はまず大学での学びに向かおうとしている受講生たちに時事問題へ関心を持ってほしいとお話されました。続いて企業とは何かを質問されました。受講生からは「商品を作ったり売ったりする」「社会貢献」といった回答が寄せられました。そして「よい企業とは」との質問には「ニーズに応える」「地域経済を潤す」などの答えが返ってきました。先生はどれもが正解で企業は利潤を上げ、それを活用して人や社会と

良好な関係性を持つことが求められていると話されました。3つ目の問いでは、仮に中小企業の社長になったらということで取り組むべき業務を考えてもらったうえで、企業の様々な活動について説明されました。また、企業の数について資料を示され、大企業は全体の0.3%に過ぎず企業のほとんどは中小であること、従業員数においても7割は中小企業が占めていること、加えて企業を取り巻く環境が変化していることを話され



5つのイノベーション

- ①創造的活動による新製品開発：プロダクト
- ②新生産方式の導入：プロセス
- ③新マーケットの開拓：マーケット
- ④新たな資源(の供給源)の獲得：マテリアル
- ⑤組織の改革：システム

ました。そして企業の抱える課題を解決するためにイノベーションが必要であることを示されました。最後に大分の地場企業でも創業から100年を超える老舗企業とともに新進の企業も少なからず育てていると話され、地域の企業のことに関心をもってよく知ってほしいとおっしゃいました。社会イノベーション学科の学生たちの活動の様子も紹介していただきました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（100%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（100%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（98%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（100%）、「映像はよく見えた」（98%）という結果が出ました。